



## 診療科または基礎系の分野の一覧

1	内科系 (※1)	9	形成外科	17	臨床検査科
2	外科系 (※2)	10	眼科	18	救急科
3	皮膚科	11	耳鼻咽喉科	19	総合診療 (往診・在宅含む)
4	小児科	12	産婦人科	20	地域医療
5	精神科	13	リハビリテーション科	21	基礎医学
6	泌尿器科	14	放射線科	22	その他
7	脳神経外科	15	麻酔科		
8	整形外科	16	病理・病理診断科		

※1：内科系・・・内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、神経内科、代謝・糖尿病内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、感染症内科、心療内科

※2：外科系・・・外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科

## 【調査票B】指導医アンケート（回答用紙）

図 1-2

※回答用紙は3月31日までに病院の担当者にお渡しください。

性別	年齢	医師免許取得年	病院名	病院の郵便番号
男・女	歳	昭和 平成 年		

問 1				

問 2	問 3			問 4	問 5

問 6												
1. 全く必要ではない    2. あまり必要でない    3. どちらかといえば必要    4. 必要    5. わからない												
1 指導医講習会受講歴	1	2	3	4	5	2 専門学会専門医資格	1	2	3	4	5	
3 教育的知識・教育歴	1	2	3	4	5	4 医療技能・臨床経験（症例数等）	1	2	3	4	5	
5 研究経験	1	2	3	4	5							

問 7												
1. 全く必要ではない    2. あまり必要でない    3. どちらかといえば必要    4. 必要    5. わからない												
1 新たな医師臨床研修制度	1	2	3	4	5	2 プライマリ・ケアの基本的診療能力	1	2	3	4	5	
3 医療の社会性	1	2	3	4	5	4 患者と医師との関係	1	2	3	4	5	
5 医療面接	1	2	3	4	5	6 根拠に基づいた医療（EBM）	1	2	3	4	5	
7 医療安全管理	1	2	3	4	5	8 地域・保健医療	1	2	3	4	5	
9 指導医の在り方	1	2	3	4	5	10 研修プログラムの立案 （研修目標・方略・評価等の計画作成）	1	2	3	4	5	
11 研修医、指導医及び 研修プログラムの評価	1	2	3	4	5	12 プロフェッショナリズム	1	2	3	4	5	
13 研修医指導方法の実際 （フィードバック、コーチング等）	1	2	3	4	5	14 研修病院の体制整備	1	2	3	4	5	
15 研修医への対応 （メンタルヘルス等）	1	2	3	4	5	16 チーム医療 （コミュニケーション等）	1	2	3	4	5	
17 卒前教育の現状 （CBT, OSCE 等）	1	2	3	4	5							
18 その他（自由記述）												

問8	問9	問10	問11

問12			
1 診療（研修医と共に診療にあたる）時間	時間/週	2 指導専念時間（研修医用カンファ等も含む）	時間/週
3 指導の準備に使う時間	時間/週	4 総勤務時間	時間/週

問13	問14				問15	問16

問14の4の内容を教えてください（ ）

問17			
1. 全くそう思わない    2. あまりそう思わない    3. ややそう思う    4. そう思う    5. とてもそう思う			
1 研修医を指導することが楽しい		2 教えることにより、自身の知識等が深まる	
3 医師として後進の教育は必要なことだ		4 自分の指導を希望する研修医が多い	
5 指導することが組織において評価されている (処遇も含む)		6 指導時間が十分にとれる勤務体制になっている (診療に関わらず確保されている)	
7 指導にかかる負担（精神的・肉体的）が少ない		8 自身の診療時間が確保されている	

問18	問19										問20

問19の11の内容を教えてください（ ）

問21													

問21の16の内容を教えてください（ ）

問22	問23

問23の5の内容を教えてください（ ）

臨床研修指導医アンケート集計結果

分担研究者 安田 あゆ子(名古屋大学医学部附属病院)

研究協力者 安藤 昌彦(名古屋大学医学部附属病院)

1) 回答者の属性

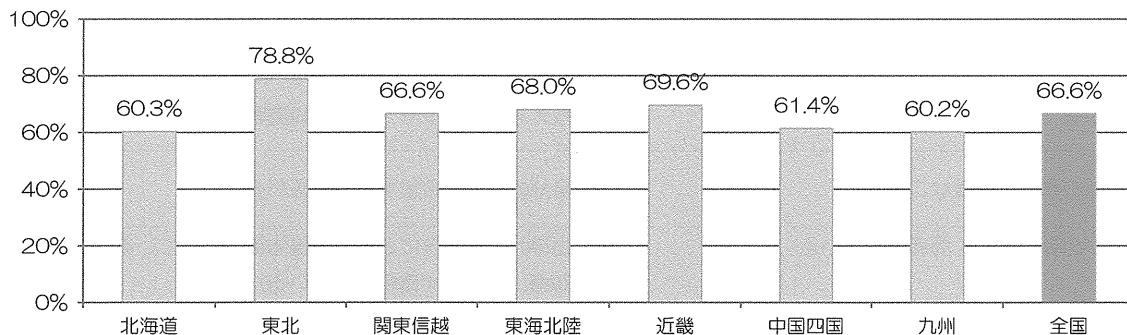
【回答者について】

基幹型臨床研修病院、もしくは基幹型相当大学病院に平成 24 年 2、3 月に所属する臨床研修指導医（臨床経験が 7 年以上あり、臨床研修指導医講習会受講済みの医師で、臨床研修担当施設の常勤医）を対象に無記名にて実施した。この調査は名古屋大学大学院医学系研究科倫理審査委員会の審議・承認(承認番号 2011-0009)を経て実施された。

アンケート配布総数 23,603 枚

アンケート回収基幹型病院数 698 施設 (66.6%)

地方厚生局別基幹型回収率



アンケート回収総数 16,669 (70.6%)

無効回答数 22 (医籍登録が平成 18 年以降と回答した者)

解析対象数 16,647

【回答者の性別】

	度数	割合 (%)
男	14653	88.0
女	1723	10.4
無回答	271	1.6
合計	16647	100.0

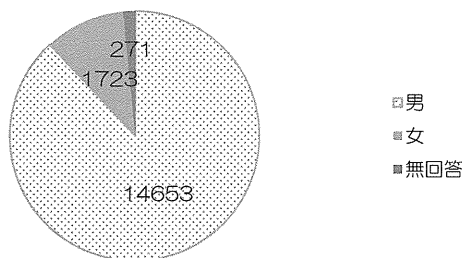
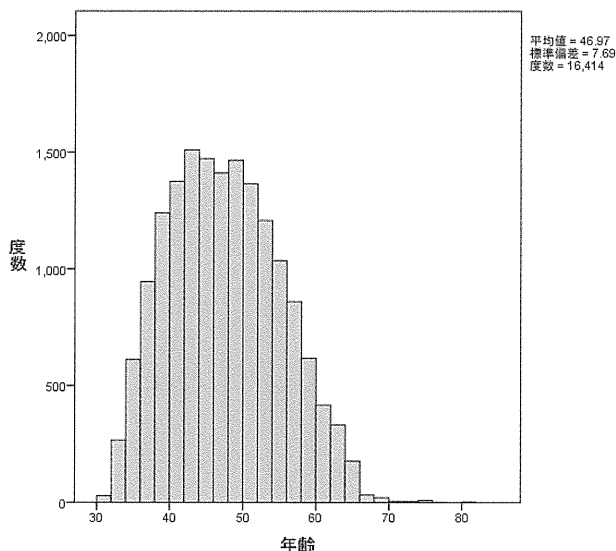


図 2-1

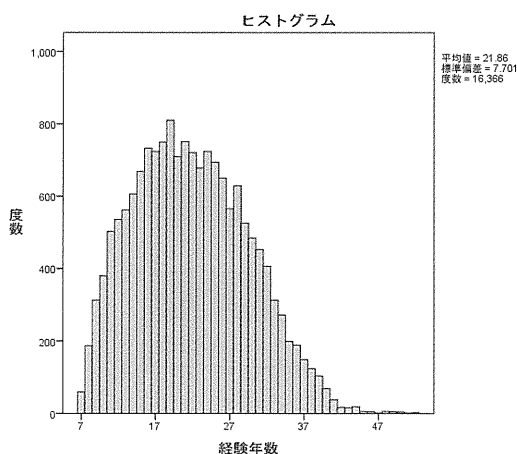
【年齢分布】

度数	有効	16414
	欠損値	234
平均値(歳)		47.0
中央値(歳)		47
最頻値(歳)		44
標準偏差		7.7
最小値(歳)		30
最大値(歳)		80
パーセンタイル(歳)	25	41.0
	75	53.0



【経験年数（医師免許取得年からの年数）】経験年数7年未満の回答者は今回の調査から除いた。年齢と免許取得年数の関係から入力ミスと思われるものを極力除き、経験年数52年（77歳）を最大値として扱った。

度数	有効値	16366
平均値		21.9
中央値		21
最頻値		19
標準偏差		7.7
パーセン	25	16
タイル	75	27



【専門とする診療科別回答者数】

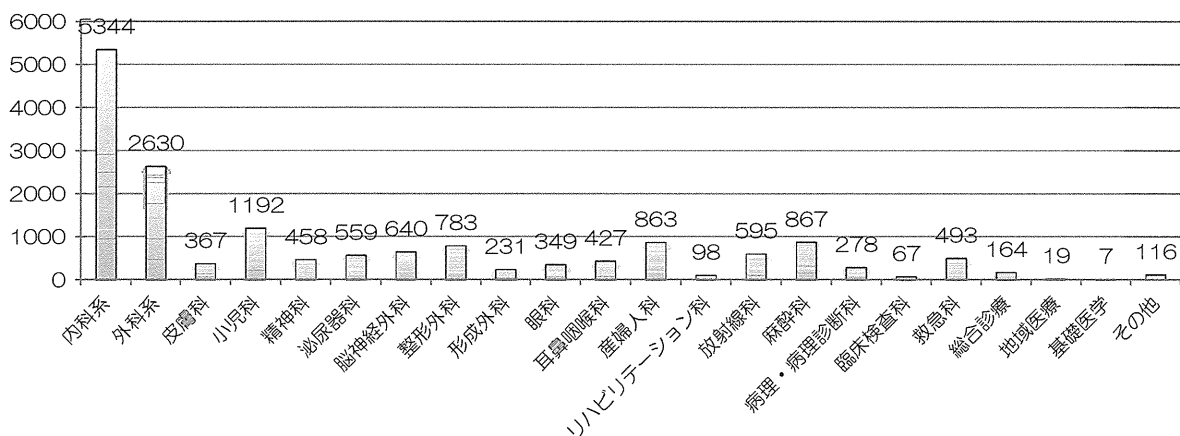
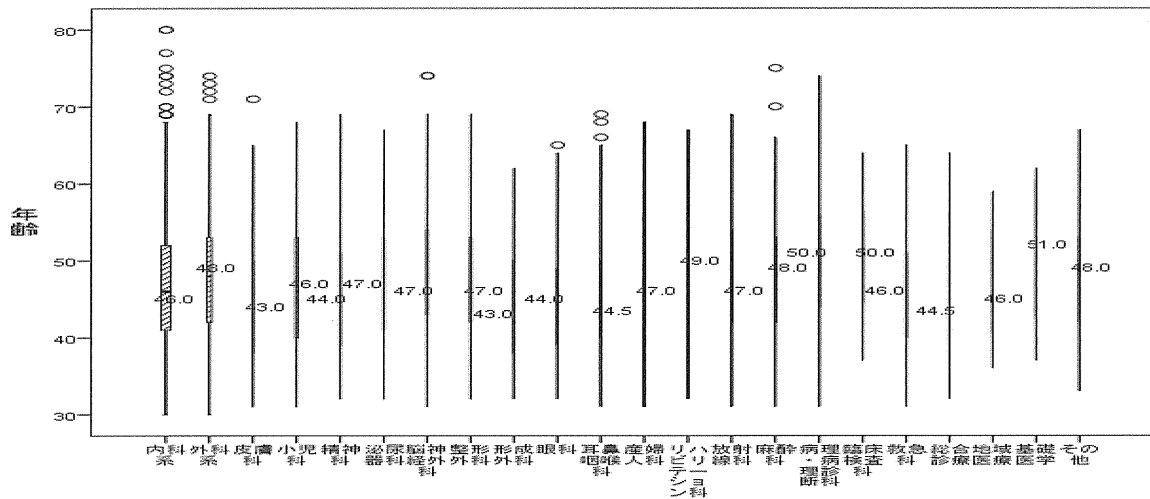


図 2-2

【専門診療科ごとの年齢分布】

数字は中央値の年齢、斜線の箱の上下は4分位、幅は度数、棒の両端は95%信頼区間、○は外れ値を表す。



【院内体制における役割】

院内での役割	回答数 (複数回答可)
プログラム責任者 (副を含む)	1800
研修管理委員長	402
研修管理委員	4432
院内の臨床研修センター等所属員	1878
その他	9786
<b>合計</b>	<b>18298</b>

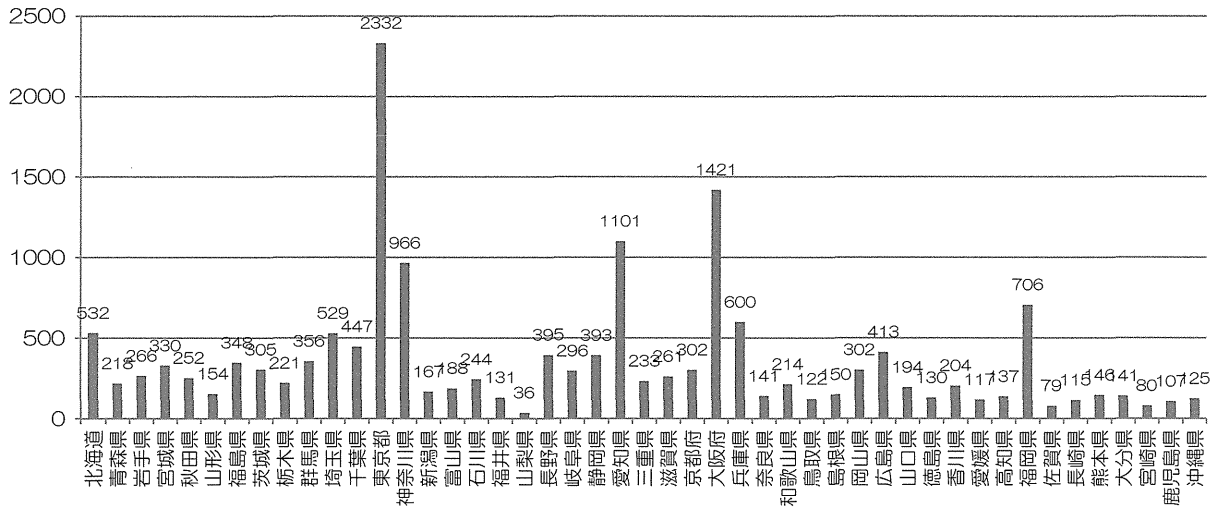
【院内役割別年齢分布】

		プログラム責任者	研修管理委員長	研修管理委員	院内の臨床研修センター等の所属員	その他
度数	有効	1777	395	4374	1856	9649
	欠損値	23	7	58	22	137
平均値		52.1	54.8	50.6	46.5	45.0
中央値		52.0	55.0	51.0	46.0	44.0
最頻値		51	55	53	42	43
最小値		32	32	30	30	30
最大値		74	73	80	74	80
パーセンタイル	25	48.0	51.0	46.0	41.0	39.0
	75	57.0	59.0	56.0	52.0	50.0

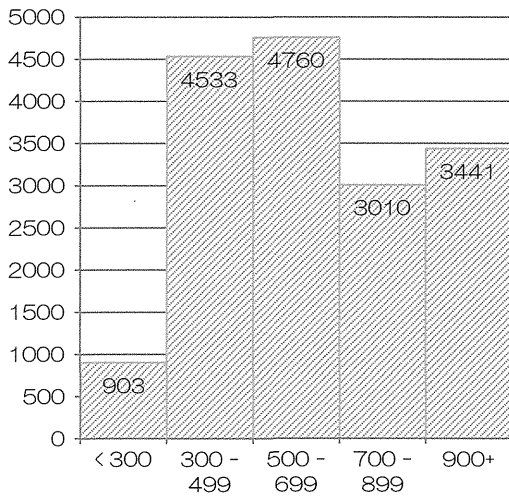
図 2-3

【所属病院別回答者分布】

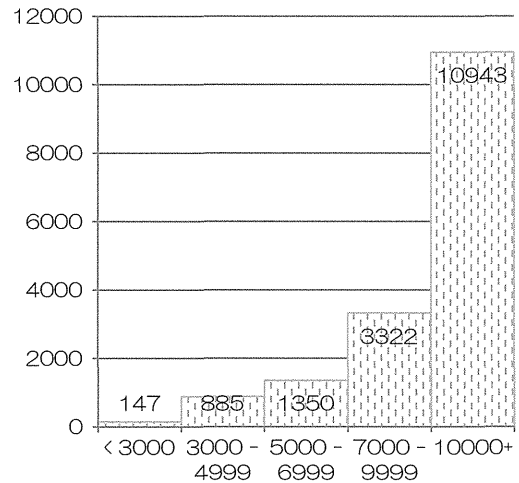
① 都道府県別回答指導医数



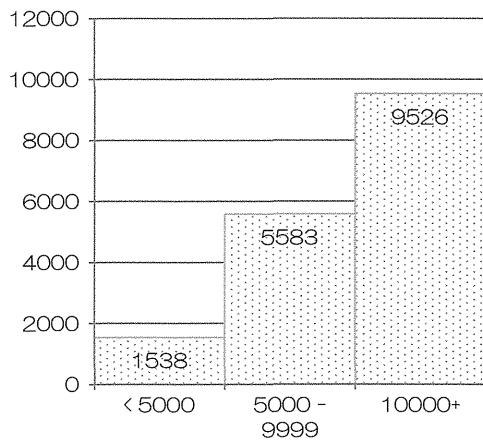
② 所属病院の総病床数別回答指導医数



③ 所属病院の年間入院患者数別回答指導医数



④ 所属病院の年間救急件数別回答指導医数



⑤ 所属病院所在二次医療圏の人口10万対医師数別回答指導医数

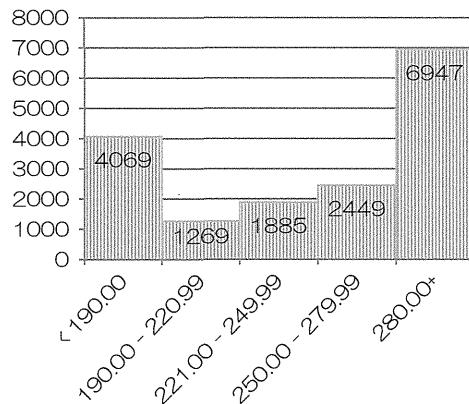
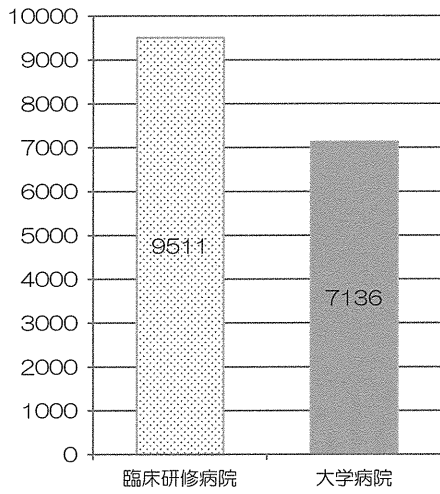


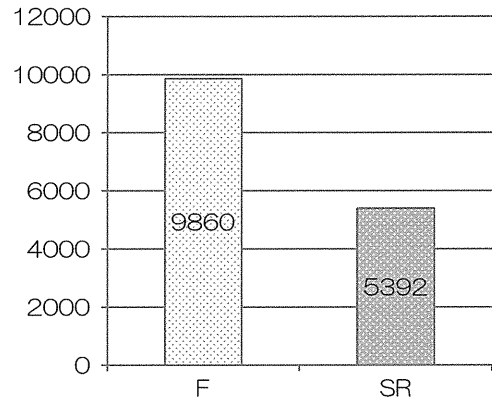
図 2-4



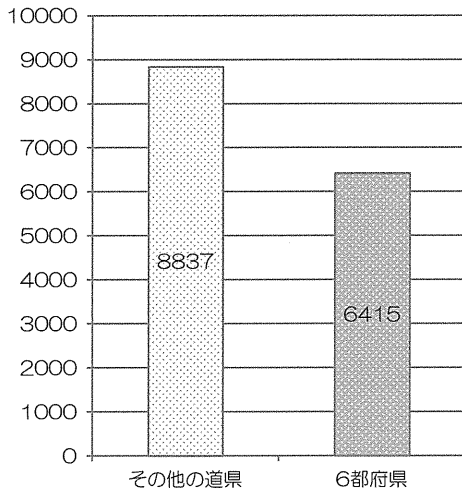
⑥ 所属病院の種別回答指導医数



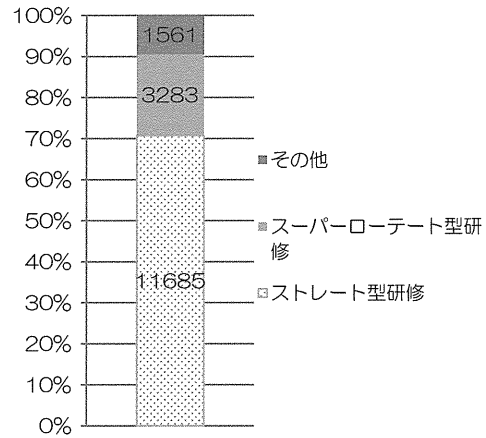
⑦ 所属病院で主に採用しているプログラム別回答指導医数 (Fは弾力化、SRはスーパーローテート型)



⑧ 都道府県別回答指導医数



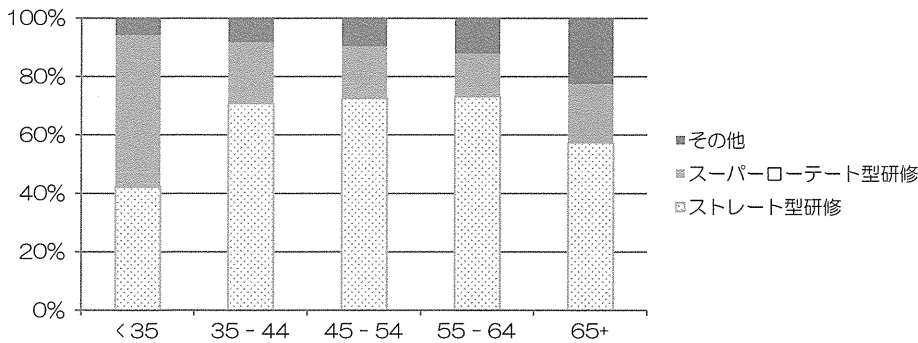
⑨ 自身が受けた研修別回答指導医数



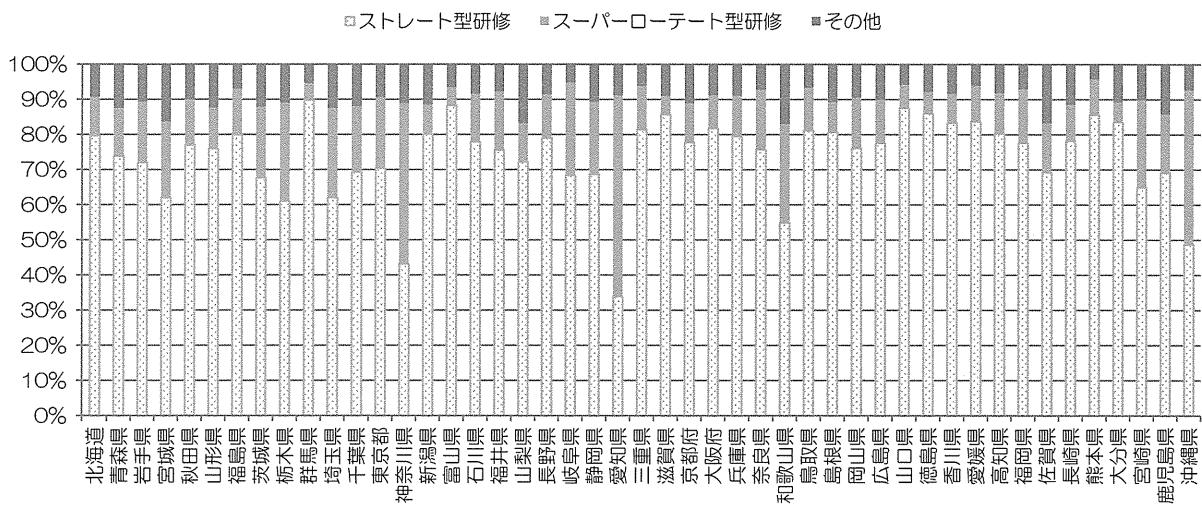
【受けた研修別回答者の年齢分布】 (t検定にて $p < 0.001$ )

年齢分布		ストレート型研修	スーパーローテート型研修
度数	有効	11537	3231
	欠損値	148	52
平均値		47.3	45.1
中央値		47.0	45.0
最頻値		44	38
標準偏差		7.4	8.1
最小値		30	30
最大値		80	75
パーセンタイル	25	41.0	39.0
	75	53.0	51.0

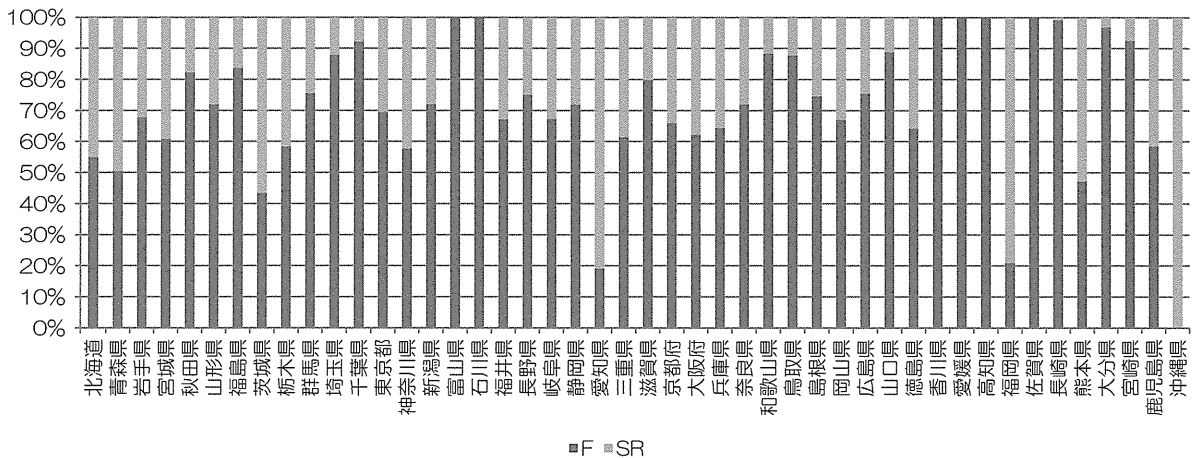
【回答者年齢階層ごとの受けた研修割合】



【都道府県ごとの受けた研修割合】



【都道府県別所属病院のプログラム種別回答者割合】



プログラム種別は改正以前の7必修科目を全て必修としているプログラム、または3必修科目以外に4選択必修科目(科目、期間は問わない)を必修としているプログラムが募集定員の多数を占める施設をSR(スーパーローテート型プログラム)施設とし、それ以外をF(弾力化プログラム)施設とした。

図 2-6

2) 研修に必要な科目、期間

① 専門とする診療科または基礎系の分野と臨床研修で担当する分野

	専門分野 (再掲)	担当研修科 (複数回答可)	担当指導医の割合(専門と する分野をベース)
内科系	5344	6124	114.6%
外科系	2630	3436	130.6%
皮膚科	367	411	112.0%
小児科	1192	1674	140.4%
精神科	458	581	126.9%
泌尿器科	559	523	93.6%
脳神経外科	640	653	102.0%
整形外科	783	845	107.9%
形成外科	231	235	101.7%
眼科	349	336	96.3%
耳鼻咽喉科	427	415	97.2%
産婦人科	863	971	112.5%
リハビリテーション科	98	246	251.0%
放射線科	595	644	108.2%
麻酔科	867	1086	125.3%
病理・病理診断科	278	313	112.6%
臨床検査科	67	234	349.3%
救急科	493	2483	503.7%
総合診療	164	776	473.2%
地域医療	19	388	2042.1%
基礎医学	7	52	742.9%
その他	116	403	347.4%
合計	16547	22829	137.96%

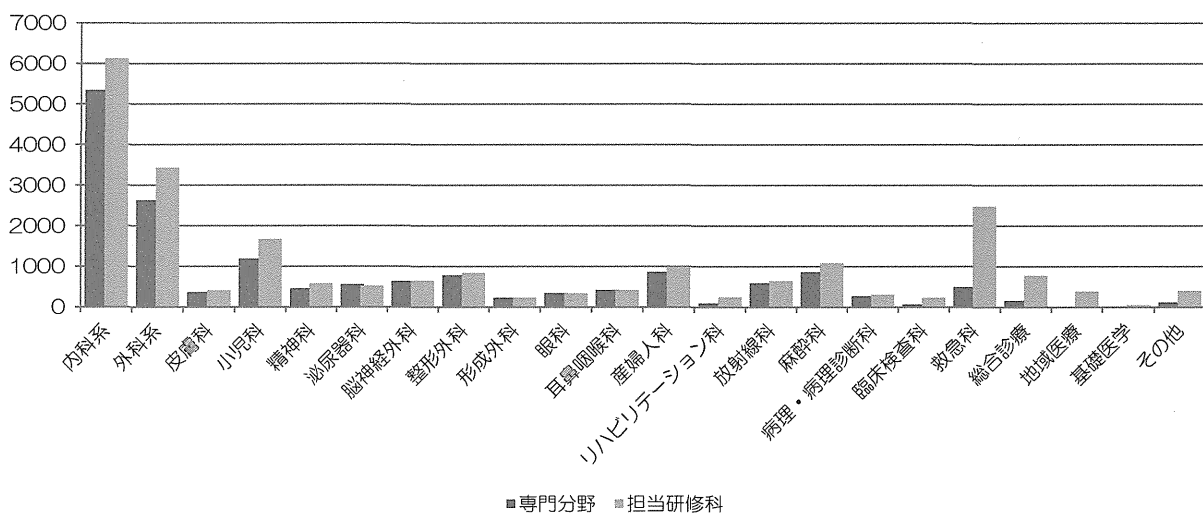


図 2-7

② 主に担当している研修科目はプライマリケアに必要とされる基本的診療能力を修得（到達目標を達成）するために必要か。専門科と研修科が一致したものの回答から必要不必要の数、およびその割合（下図）

	必要だと思う	必要だと思わない
内科系	5002	78
外科系	2273	228
皮膚科	281	51
小児科	1096	36
精神科	408	18
泌尿器科	411	85
脳神経外科	533	45
整形外科	681	31
形成外科	157	48
眼科	208	110
耳鼻咽喉科	305	84
産婦人科	721	82
リハビリテーション科	56	19
放射線科	478	73
麻酔科	760	47
病理・病理診断科	145	104
臨床検査科	53	5
救急科	461	2
総合診療	151	1
地域医療	15	0
基礎医学	2	1
その他	60	29
合計	14257	1177

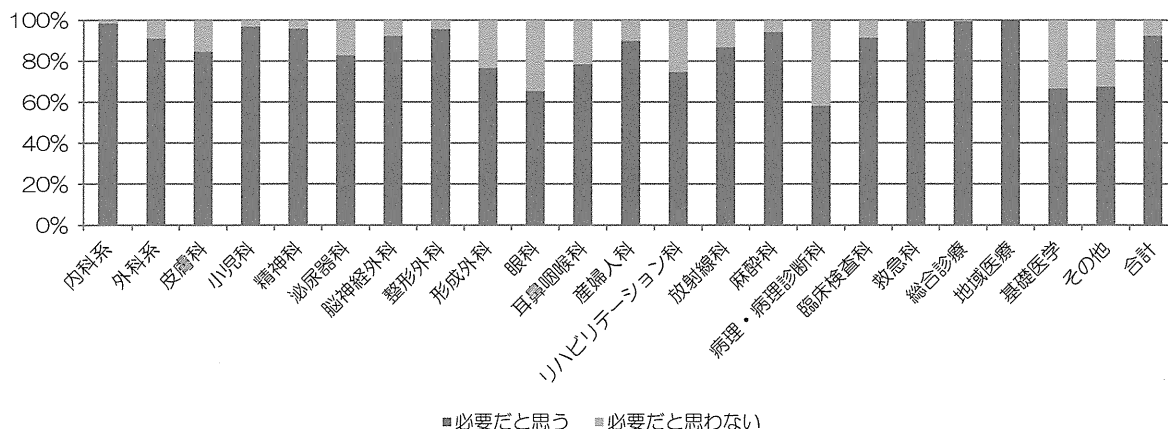
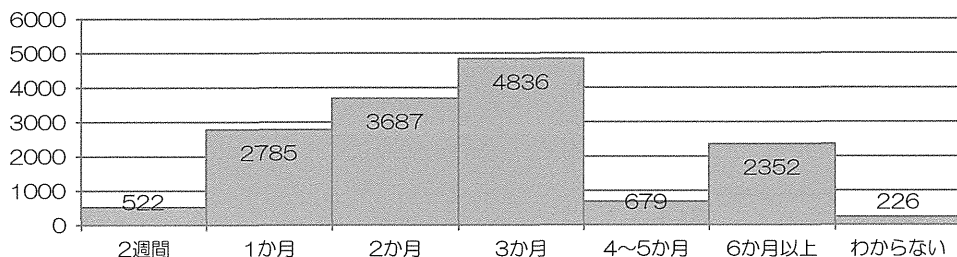


図 2-8

③ 必要である場合に最低必要だと思う研修期間

度数	有効	14861
	欠損値(わからないを含む)	1786
中央値		3か月
パーセンタイル	25	2か月
	75	3か月

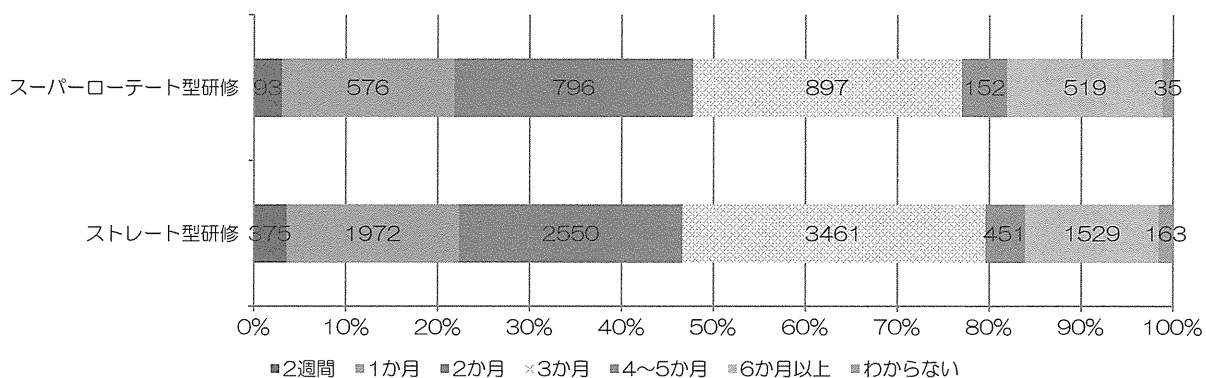


専門科と研修科が一致した回答のみ集計

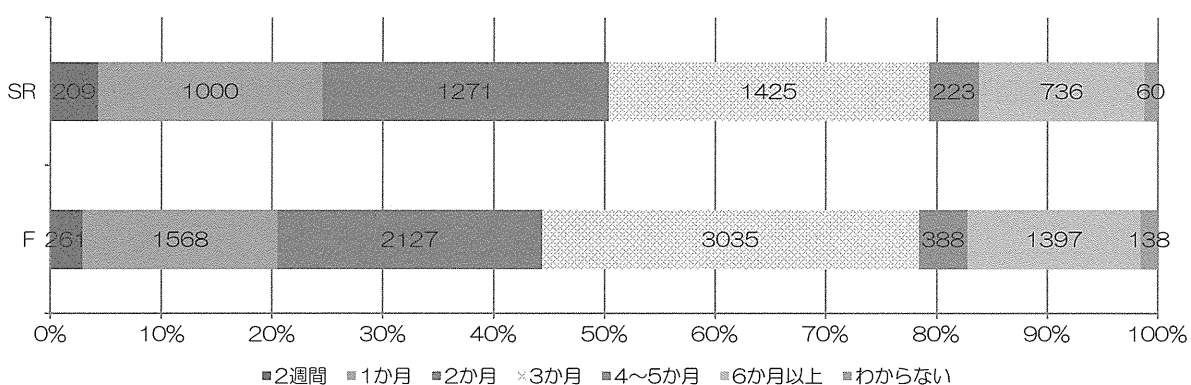
	2週間	1か月	2か月	3か月	4~5か月	6か月以上	中央値	最頻値
内科系	75	510	1016	1437	329	1572	3か月	6か月以上
外科系	36	284	460	1071	130	270	3か月	3か月
皮膚科	30	120	75	38	1	12	1か月	1か月
小児科	9	127	419	423	34	78	2か月	3か月
精神科	10	178	131	71	6	9	2か月	1か月
泌尿器科	61	172	81	71	4	13	1か月	1か月
脳神経外科	17	174	162	137	14	24	2か月	1か月
整形外科	12	154	189	254	20	40	2か月	3か月
形成外科	21	75	32	21	3	2	1か月	1か月
眼科	42	67	38	40	5	7	1か月	1か月
耳鼻咽喉科	51	114	76	42	3	12	1か月	1か月
産婦人科	20	238	257	151	18	29	2か月	2か月
リハビリテーション科	9	23	14	8	2	2	1か月	1か月
放射線科	21	147	141	125	8	22	2か月	1か月
麻酔科	7	66	263	363	21	32	3か月	3か月
病理・病理診断科	25	69	20	19	0	5	1か月	1か月
臨床検査科	11	30	5	4	0	1	1か月	1か月
救急科	0	14	65	246	40	89	3か月	3か月
総合診療	1	18	38	49	8	35	3か月	3か月
地域医療	0	5	4	4	0	2	2か月	1か月
基礎医学	1	1	0	0	0	0	2週間	2週間
その他	12	23	18	3	0	2	1か月	1か月
合計	471	2609	3504	4577	646	2258	3か月	3か月

図 2-9

④ 受けた研修別の最低必要と思う期間 (Mann-Whitney 検定にて p=0.214 有意差なし)



⑤ 所属病院のプログラム種別の最低必要と思う期間 (Mann-Whitney 検定にて p<0.001)



⑥ 所属病院別の最低必要と思う期間 (Mann-Whitney 検定にて p=0.003)

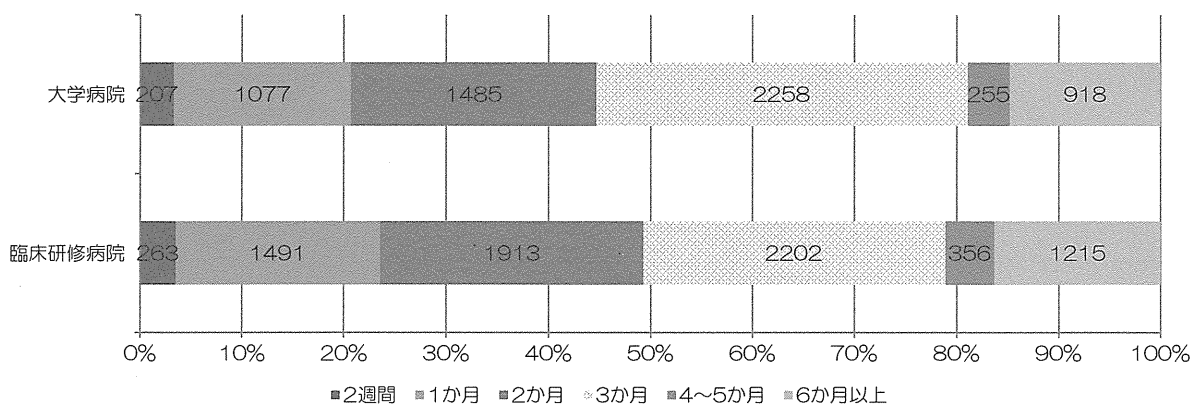
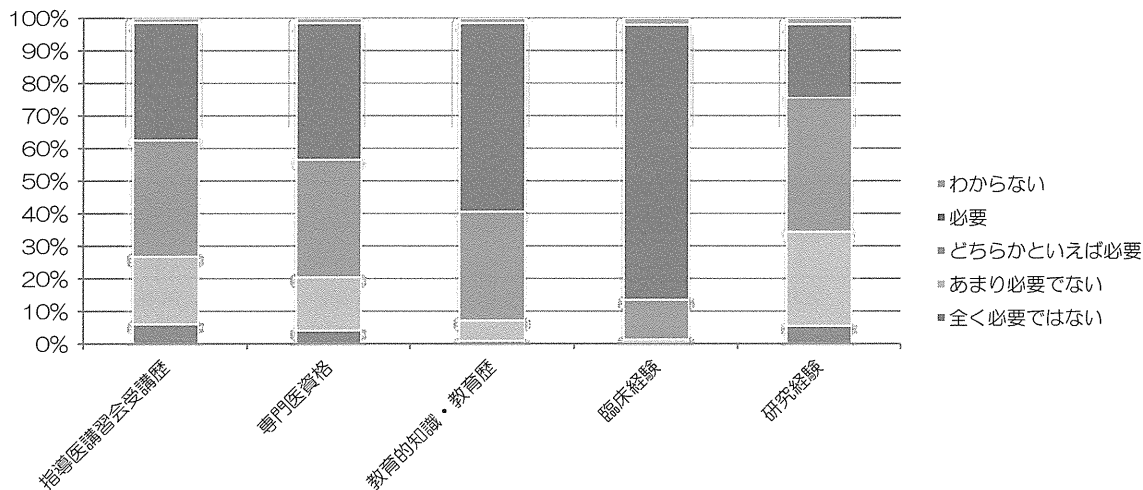


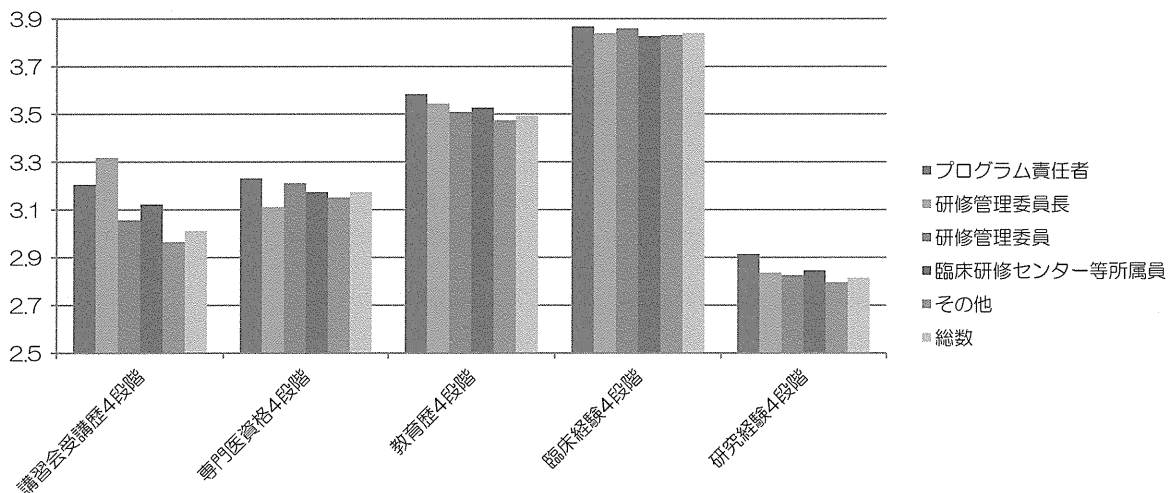
図 2-10

### 3) 指導医に求められる資質

#### ① 臨床研修指導医としてどの程度必要か (n=14730~14752)



#### ② 院内での役割別回答の平均値 (わからないを除き、1 全く必要でない~4 必要を平均した値)



#### ③ 所属病院別回答の平均値 (わからないを除き、1 全く必要でない~4 必要を平均した値)

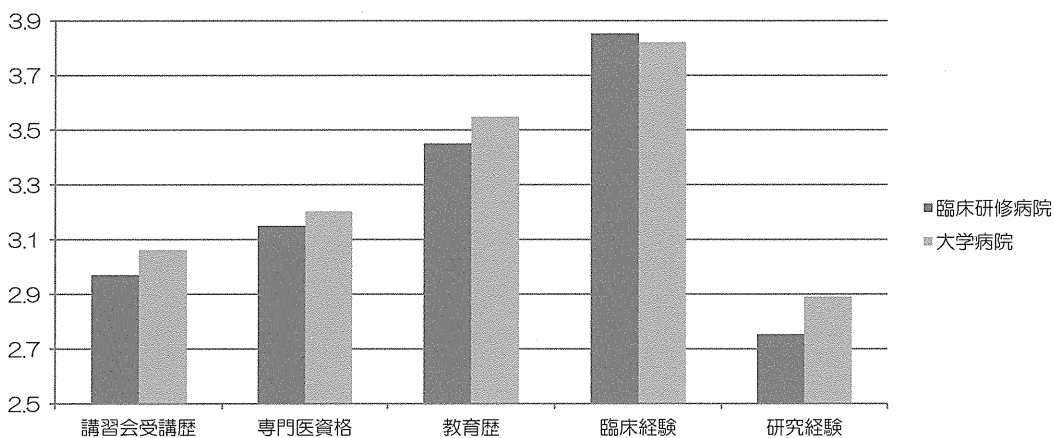
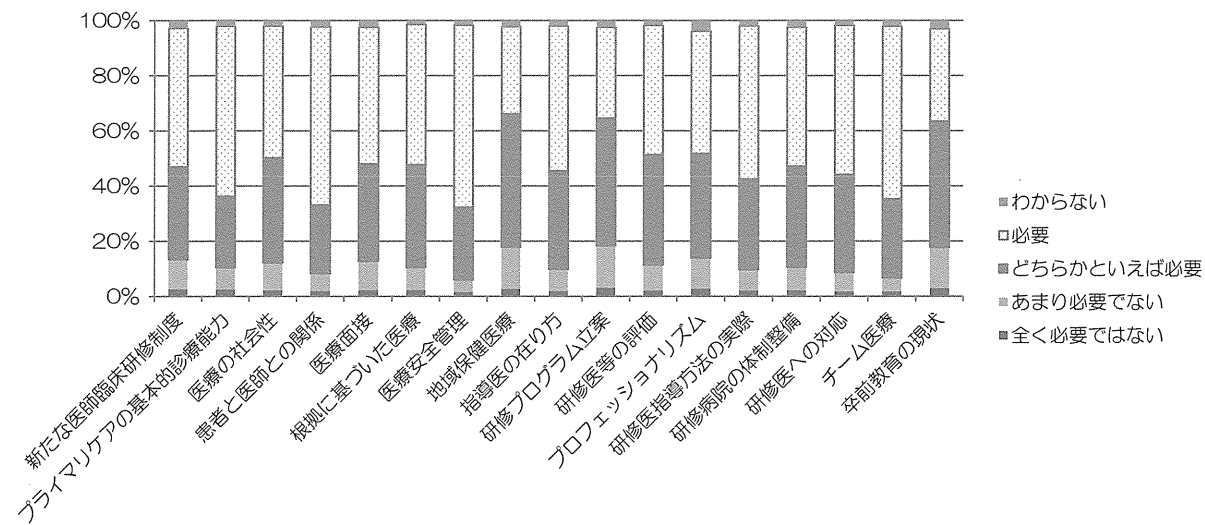


図 2-11

④ 指導医講習会のテーマについて指導医講習会で受講する(指導医が理解しておく)必要があるか



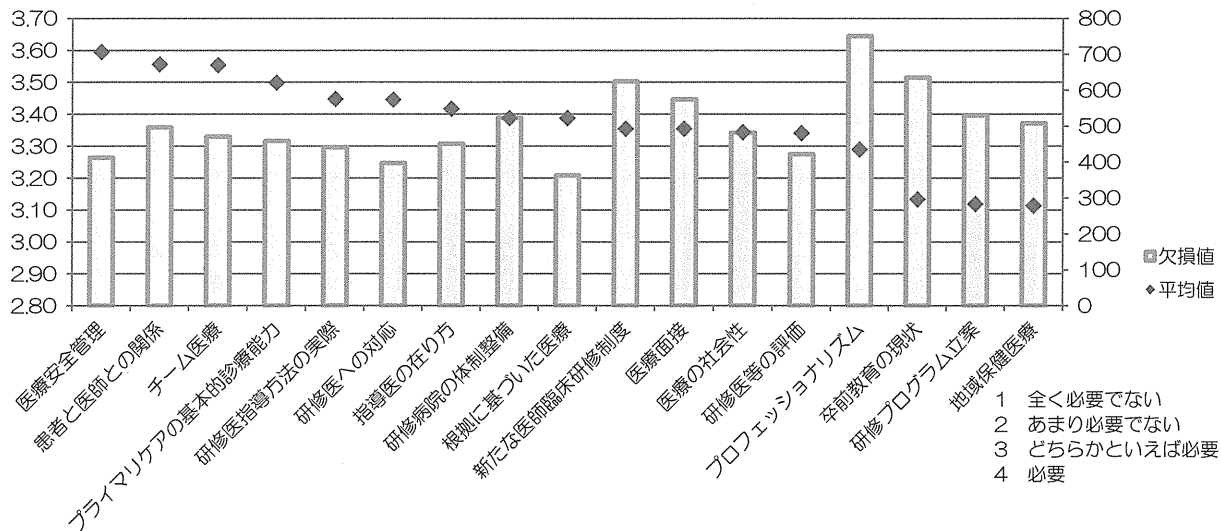
⑤ 各テーマごとの回答、また講習会が参考になるかどうかの回答者別平均値

(わからないもしくは空欄を欠損値とする。欠損値を除き、1 全く必要でない～4 必要 を平均した値)

	度数		平均値	中央値	講習会は参考になるか			
	有効	欠損値			はい	いいえ	どちらともいえない	
医療安全管理	16235	412	3.59	4	3.72	3.28	3.59	
患者と医師との関係	16150	497	3.56	4	3.69	3.23	3.54	
チーム医療	16176	471	3.55	4	3.71	3.16	3.55	
プライマリケアの基本的診察能力	16188	459	3.50	4	3.61	3.20	3.50	
研修医指導方法の実際	16206	441	3.45	4	3.71	2.87	3.39	
研修医への対応	16250	397	3.44	4	3.67	2.98	3.39	
指導医の在り方	16196	451	3.42	4	3.66	2.90	3.36	
研修病院の体制整備	16124	523	3.39	4	3.52	3.05	3.38	
根拠に基づいた医療	16284	363	3.39	4	3.51	3.08	3.38	
新たな医師臨床研修制度	16022	625	3.35	4	3.52	3.00	3.31	
医療面接	16073	574	3.35	4	3.54	2.93	3.32	
医療の社会性	16166	481	3.34	3	3.50	2.97	3.32	
研修医等の評価	16225	422	3.34	3	3.56	2.85	3.30	
プロフェッショナリズム	15896	751	3.29	3	3.45	2.94	3.26	
卒前教育の現状	16012	635	3.13	3	3.31	2.72	3.10	
研修プログラム立案	16117	530	3.12	3	3.33	2.60	3.09	
地域保健医療	16139	508	3.11	3	3.27	2.72	3.10	

図 2-12





⑥ 指導医講習会は研修医指導の参考になるか(n=16538)

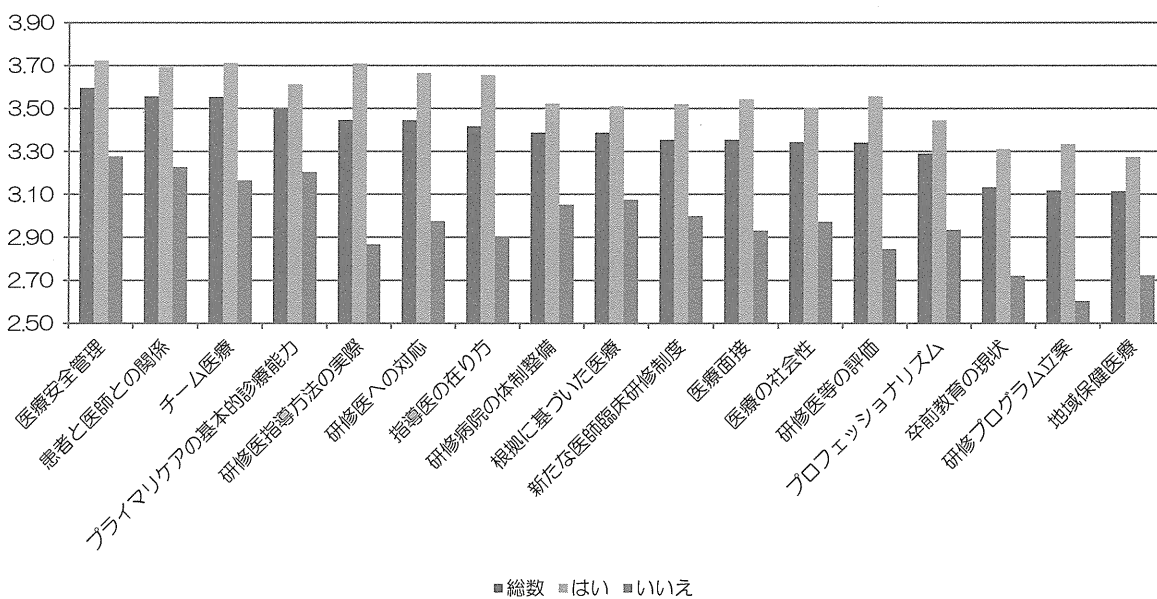
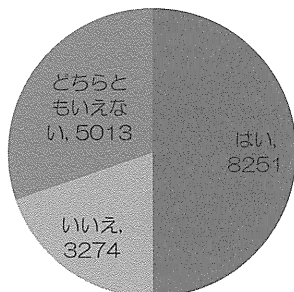


図 2-13

⑦ 指導医講習会が参考になったとした回答者を 1 とする従属変数として多変量二項ロジスティック分析を実施した。

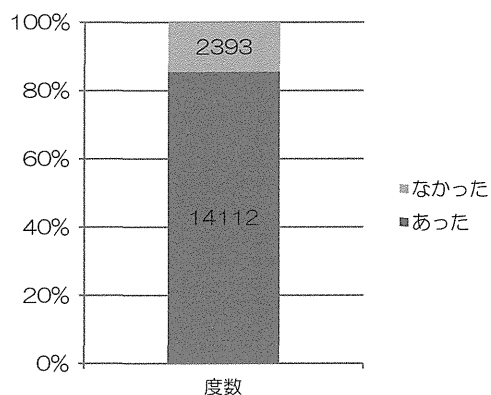
有意差がある変数のうち、オッズ比の高い変数ほど、指導医講習会が参考になったと考える回答者が受講する必要がある（指導医が理解しておく必要がある）と考えている。

	オッズ比	オッズ比の 95% 信頼区間		有意確率	p>0.05
		下限	上限		
新たな医師臨床研修制度	1.182	1.116	1.250	.000	○
プライマリケアの基本的診療能力	.950	.883	1.023	.174	
医療の社会性	1.027	.954	1.105	.485	
患者と医師との関係	1.012	.923	1.110	.799	
医療面接	1.203	1.118	1.295	.000	○
根拠に基づいた医療	.936	.868	1.010	.088	
医療安全管理	.936	.861	1.018	.123	
地域保健医療	1.084	1.012	1.162	.021	○
指導医の在り方	1.489	1.382	1.605	.000	○
研修プログラム立案	1.317	1.232	1.408	.000	○
研修医等の評価	1.012	.937	1.094	.757	
プロフェッショナリズム	1.006	.942	1.074	.859	
研修医指導方法の実際	1.925	1.772	2.091	.000	○
研修病院の体制整備	.943	.879	1.011	.096	
研修医への対応	1.173	1.081	1.272	.000	○
チーム医療	1.163	1.066	1.268	.001	○
卒前教育の現状	.984	.924	1.048	.614	

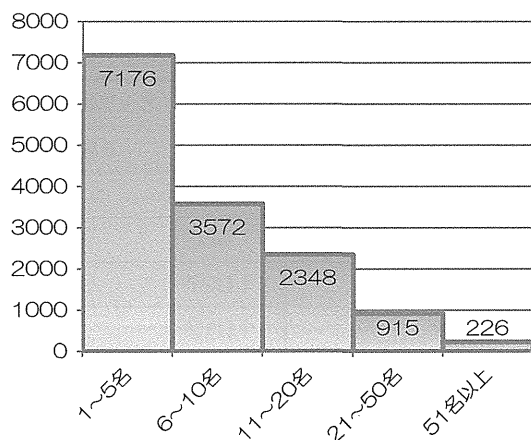
図 2-14

4) 指導・教育関連業務について

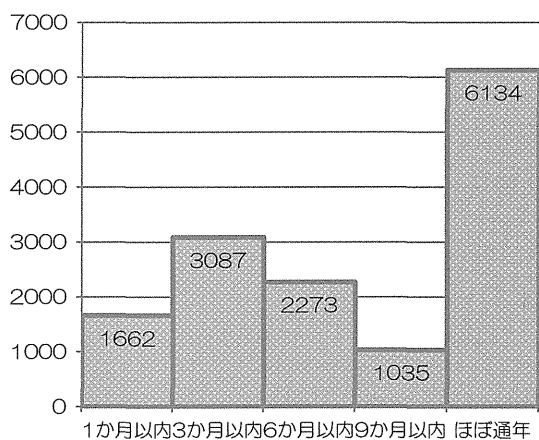
① 最近1年間の研修医を指導する機会の有無(n=16505)



② 最近1年間に指導した研修医数(n=14237)



③ 研修医指導に当たる年間の期間(n=14191)



④ 最近1年間に指導を行わなかった理由(n=2530)

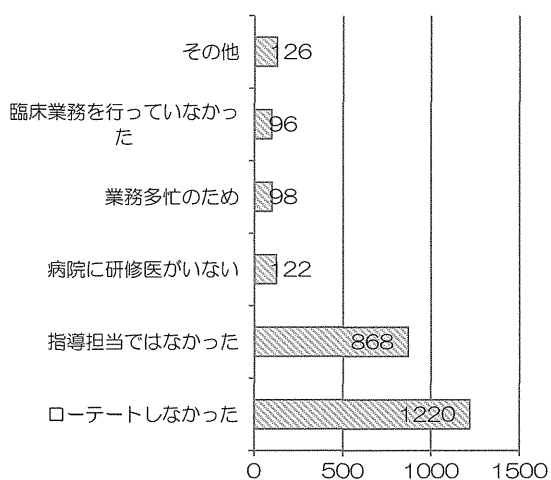
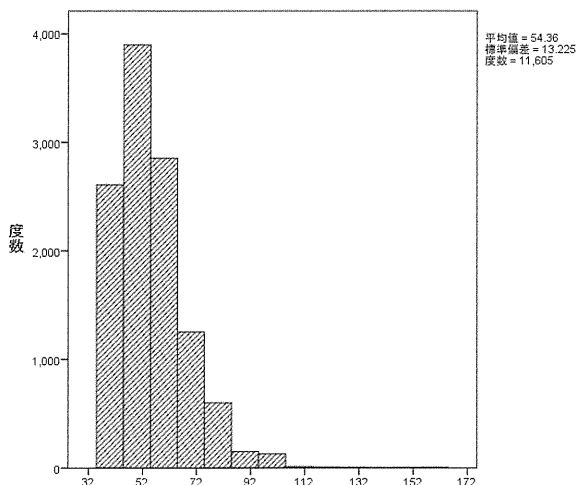


図 2-15

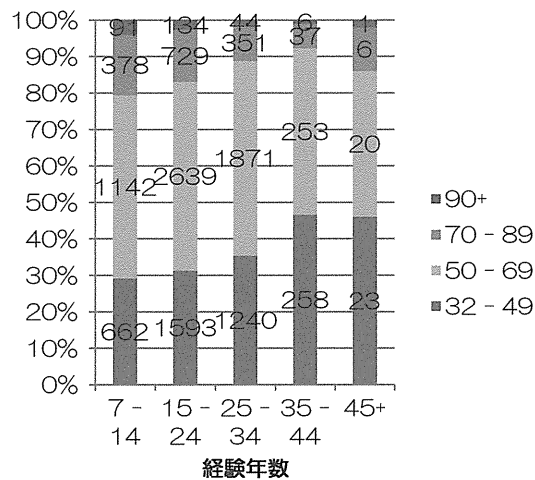
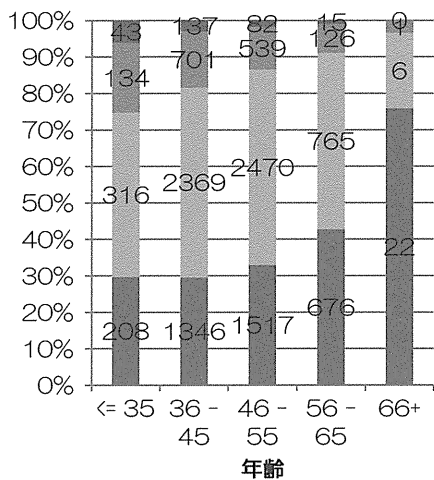
⑤ 指導医の総勤務時間（1週間当たり）

数値にて回答を得たため、32時間以上168時間（24時間×7日）以下を有効回答とした。

度数	有効	11605
平均値		54.4
中央値		50
最頻値		50
標準偏差		13.2
パーセン	25	45.0
タイル	75	60.0



⑥ 年齢、経験年数別総勤務時間割合（n=11473、11605）



⑦ 研修医指導時間（1週間当たり）

数値にて回答を得、168時間以下を有効回答とした。

		研修医と共に診療にあたる時間	指導専念時間	指導の準備時間
度数	有効	13849	13743	13634
平均値		11.8	3.9	2.2
中央値		7.5	2.0	1.0
最頻値		10	2	1
標準偏差		12.4	5.1	3.3
パーセンタイル	25	3.0	1.0	1.0
	75	15.0	5.0	2.0

図 2-16